ポート・オブ・ザ・イヤー2026

～下関港への投票をお願いします!!～

投票期間：令和8年10月1日～11月30日17時まで
問合せ先：下関市港湾局（TEL：083-231-1390）

投票フォームはこちら→
（日本港湾協会HP）

日本港湾協会が刊行する情報誌『港湾』の**投票により**、港湾の利活用やみなとまちづくりなどの各種の港湾活動や港に関する話題づくりに**その年で最も優れ**、我が国の港湾・臨海部の活性化に寄与し、**「みなとの元気」を高めた港湾が「ポート・オブ・ザ・イヤー」として表彰**されるものであり、今年は下関港を含む３港が推薦されています。

星野リゾート「リゾナーレ下関」

令和7年12月に開業され、アメリカのニュース誌「TIME」が発表した**“2026年 世界で最も素晴らしい場所”の1つに選出**されました！

海峡ドローンアート

新たな観光プログラムとして、海峡ドローンアートを実施！「ドローンショーアワード2025Under300」部門で**グランプリを受賞**しました！

長州出島に三菱重工業が進出

10区画分の売買契約を締結！**約1,000億円の投資**が見込まれており、船体ブロックの製造工場の新設が予定されています！

その他のトピックス

- ⚓輸出額が **2年連続で1兆円超達成**！（R6,7年）
- ⚓半導体製造装置の韓国向け輸出額が**日本一**！
- ⚓令和8年のクルーズ船寄港予定数が **コロナ禍以降最高の33隻**！

下関港

推薦：下関市

下関港の概要

下関市と韓国の釜山広域市は昭和51年に姉妹都市となり、今年で50年の節目を迎えます。両市を結ぶ航路として、日本初の国際定期フェリーとして就航した関釜フェリーが、現在、毎日運航し、日本最大級の国際フェリー基地を形成しております。この関釜フェリーを中心に、下関港は、東アジアに近い地理的優位性や良好な国内交通アクセスに加えて、迅速な検査体制を活かしたスピーディーかつ定時性の高い国際複合一貫輸送サービスを特長として掲げ、東アジアのゲートウェイとして重要な役割を果たしております。

地域の経済社会を支える下関港

下関港では、輸出が好調で令和6年、7年と2年連続で1兆円を超えており、特に令和7年は半導体製造装置の輸出は韓国向けで1位、中国向けでは成田空港に続く2位となっております。

平成21年に一部供用を開始した長州出島には、現在、釜山へのコンテナ航路が就航する他、新港2号岸壁が供用を開始した令和5年からは、中古自動車の取り扱いが急増し、中国・九州エリアにおける中古自動車の輸出拠点化が進んでおります。さらに、令和7年から鋼材の取り扱いを開始し、貨物量が令和6年と比較しても、約3倍に急増しております。加えて、産業振興用地の分譲も好調であり、現在、全24区画のうち12区画が売却済みで、残る区画のうち10区画について、この7月に三菱重工業と売買仮契約を締結したところであり、さらなる貨物量の増加が見込まれます。

地域の人流拠点である下関港

下関港では、クルーズ船の寄港予約数について、官民一体で進めているポートセールスや寄港時のおもてなし、さらには、全国クルーズ活性化会議の会長港として、当会議で初となる総会の地元開催が功を奏し、令和8年にはコロナ禍以降最高の34隻が寄港する予定です（令和8年8月末時点）。さらに、令和8年からクルーズ旅客の受入施設の整備を開始しており、さらなるクルーズ振興が見込まれます。これらにより、下関港は人流の拠点として一層の進展が期待されております。

写真1　クルーズ船のお見送りイベント

地域の賑わいや観光を支える下関港

関門海峡に面したあるかぽーと地区には、令和7年にリニューアルオープンした海響館（水族館）や観覧車などのアミューズメント施設により、多くの市民や観光客が集まっています。また同年に、星野リゾートの「リゾナーレ下関」が開業し、アメリカのニュース誌「TIME」が発表した「2026年 世界で最も素晴らしい場所」の一つに選出されました。さらに、恒常的な賑わい創出とクルーズ船寄港時の受入体制強化を目指し、新たな観光プログラム「海峡ドローンアート」を毎月1回開催しました。こうした「新しい観光資源」の取組みが評価され、「ドローンショーアワード2025 Under300」部門でグランプリに選ばれました。令和8年からはこれらの賑わいを更に発展させるため、「みなと緑地PPP」制度の活用に向け、事業者と協議を進めております。

写真2　海峡ドローンアートとクルーズ船

脱炭素社会に向けたみなとづくりを推進する下関港

令和6年12月、長州出島において、九州地方整備局管内で初のLNGバンカリング船による貨物船へのLNG燃料供給作業を行うなど、LNGバンカリング供給拠点化を進めております。また、令和7年6月には「下関港港湾脱炭素化推進計画」を作成し、企業・団体・関係行政機関とともに下関港の脱炭素化に向けた取組を進めております。

西山及び長府の両地区では、ふ頭背後にそれぞれ令和4年と令和6年に国内最大級となるバイオマス発電所が相次いで建設、運転開始されました。海外から輸入した木質ペレットを主燃料として発電を行い、再生可能エネルギーの供給拠点となっております。

加えて、福浦地区において、二酸化炭素の吸収源にもなる海浜を整備すべく、令和4年から現地調査を実施しております。